

南海トラフ地震地域「防災・減災」シンポジウム 2019

高知 パネルディスカッション概要

気象庁では、2019年11月18日に南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域に指定されている高知市において、高知地方气象台とともに、シンポジウム（第一部基調講演:資料参照、第二部パネルディスカッション）を開催した。

パネルディスカッションは、“「要配慮者」と「南海トラフ地震臨時情報」”を地域キーワードに、「南海トラフ地震臨時情報」についての理解を深めるとともに、南海トラフ地震により発生する津波に対して、一人では避難が困難な要配慮者の方の支援に、臨時情報をどのように活かせるのかを地域の各分野の有識者（コーディネーター、パネリストはチラシ参照）により議論いただいた。

パネルディスカッションは、セッションを4つに分け、「南海トラフ地震を知る」、「大規模地震時の情報と行動を考える」、「要配慮者と南海トラフ地震臨時情報」、「今後の取り組みを考える（課題等に対する提案）」について議論いただいた。「南海トラフ地震を知る」のセッションでは、南海トラフ沿いで大規模地震が発生した場合に高知県で想定される状況と南海トラフ地震臨時情報の発表イメージの説明がされた。「大規模地震時の情報と行動を考える」のセッションでは、大規模地震時に気象庁が発表する情報、特に南海トラフ地震臨時情報をどう防災対応・行動に活かすのか、「要配慮者と南海トラフ地震臨時情報」のセッションでは、要配慮者等を対象とした普及啓発の取り組み、避難行動要支援者の避難対策に南海トラフ地震臨時情報をどのように活用するか、問題や課題について発言いただいた。

「今後の取り組みを考える（課題等に対する提案）」のセッションでは、これまでの取り組みの問題点や課題を踏まえて、今後、どのような取り組みを図っていく必要があるのかについて議論し、パネリストから「小中学校の防災意識を高め、裾野を広げていくことが地域の防災力を上げていくことにつながる」、「南海トラフ地震臨時情報を分かりやすく周知広報していくために高知県や市町村の防災担当、教育委員会と連携・協力していかなければならない」との発言をいただいた。

気象庁では、今回のシンポジウムで出された意見を踏まえて、南海トラフ地震臨時情報、南海トラフ地震関連解説情報や大規模地震の際に発表する緊急地震速報、津波警報等とそれらの情報を活用した地域に相応しい防災対応・行動、地域防災等の普及・啓発に努めていくこととしている。